

釧路市教育委員会 令和3年第17回11月定例会会議録

- 1 日時：令和3年11月24日（水）13時30分から14時55分まで
- 2 会場：釧路フィッシャーマンズワーフMOO 2階 教育委員会室
- 3 出席者  
岡部義孝教育長  
(教育委員)  
山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員  
(事務局)  
大坪学校教育部長、津田生涯学習部長、大山教育指導参事、三富学校教育部次長、  
早坂学校教育部次長、工藤生涯学習部次長、高嶋博物館長、富田総括指導主事、  
小野施設計画主幹、久保給食担当主幹、澤口生涯学習課長、中村動物園長、  
北村阿寒生涯学習課長
- 4 議事録署名人 山口委員、松尾委員
- 5 傍聴人数 0人
- 6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 令和3年度釧路市子どもミーティング ～Let's THINK&ACT～（旧くしろの子ども大集合）  
の開催について
- (2) 令和2年度いじめ・不登校等件数の確定値について
- (3) タンチョウ・レスキュー巡回展講演会の開催について
- (4) 学校の現状について

## 7 会議内容

### 【公開案件】報告事項

- (1) 令和3年度釧路市子どもミーティング ～Let's THINK&ACT～ (旧くしろの子ども大集合) の開催について

(富田総括指導主事)

「釧路市子どもミーティング」は、釧路市生徒指導推進協議会が昭和55年度より主催する、釧路市青少年健全育成市民大会の流れを汲んだ取り組みで、令和元年度に前身の「くしろのこども大集合」が40回の節目を迎え、昨年度はコロナ禍で中止となったこともあり、今年度新たな形でスタートするものである。

12月11日土曜日13:00より、まなぼっと幣舞多目的ホールにおいて開催する。

例年実施している9月開催を予定していたが、コロナの感染状況を踏まえて、今年度は12月に設定したところである。コロナ禍のため会場には表彰を受ける児童生徒、ミーティング参加者のみを基本とし、表彰式、学校紹介、子どもミーティングの様子はオンライン配信を行う予定。

特に新たな企画となる「子どもミーティング」では、中学生、高校生の他、市P連や連町の方々にも協力いただき、子どもたちをとりまく様々な問題の解決に向けて考え、協議し、発信していく場にしたいと考えている。

テーマは「読書」となっている。学校で、または中学校区で、さらには大人も巻き込んだ釧路市として全体で取り組んでいく方向性を見つけていきたいと考えている。

まずは初年度の開催であり、指導主事も試行錯誤ではあるが、今回確認された内容を年間通じて考え、行動し、次年度の子どもミーティングの中で検証できたらと考えている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(岡部教育長)

従来の「くしろの子ども大集合」を、名称を変えながら、且つ今回は教育懇談会等々に次いで、読書習慣をテーマにして、子どもたちに自ら議論をしてもらう内容である。

(山口委員)

読書活動を取り上げたという中身の部分は、非常に時期を得た内容と思ったが、コロナ禍で学校紹介等、会場に参集する人数が限られ、あとはオンラインという手法を取るようであるが、できるだけ多くの学校と子どもたち、先生方に中身を知ってもらい、各学校での具体的な取り組みを期待したい。オンラインでの配信が学校休業日である土曜日となるため、各学校の対応がポイントになると思うので、是非有効な手立てを検討いただきたい。ただ配信します、見てくださいます、ほとんどの子どもたちが見なかったという結果も懸念されるのでよろしくお願ひしたい。

(富田総括指導主事)

土曜日であるので、子どもたちに絶対というのは難しいとは思っているが、学校の先生方、保護者の方には十分に周知していく。中学校から小学校への働きかけ、先生と参加した生徒と今後どうして

いくつかという検討も進めながら、動画を活用しながら進めていきたい。

しかし、初回なのでどうなるか、オンラインは意外とスルーされてしまうことが多いので、内容の周知を含め検討していく。

#### 【公開案件】 報告事項

##### (2) 令和2年度いじめ・不登校等件数の確定値について

(富田総括指導主事)

文部科学省において毎年実施している、「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」に係る、令和2年度の本市の確定値について報告する。

この調査は、毎年年度初めに実施しており、10月13日をもって確定値として確認されたところである。

いじめの認知件数は1,536件であり、昨年度より小学校は269件、中学校では8件、計277件増えている。

不登校児童生徒数は389人であり、昨年度より小学校は57人、中学校では40人増加、計97人の増加となっている。出現率(学校における不登校児童生徒の割合)については、全体で3.72%、小学校で1.91%、中学校で7.06%であり、全道全国に比べて高い状況である。暴力行為については、昨年度に引き続き0件であった。

確定値は以上であるが、本市の不登校児童生徒数が増加していることから、その不登校の要因及び、市教委としての取り組みについてあわせて報告する。

不登校児童生徒の主たる要因について、小学校では家庭や本人の状況が大半である。中学校では友人関係の構築の難しさ、学習面、進路の不安、生活リズムの乱れ等に起因するケースが多いととらえている。また、中学校において不登校となった場合、長期化する傾向が強くなっている。

教育支援課としては、要因について大きく「人間関係」「中1ギャップ」「学業不振」ととらえていることから、未然防止の取り組みである児童生徒支援カルテの提出、センター講座やキャリア教育の充実、授業改善の推進、小中連携、受け皿としての青空学級、ふれあい教室(適応指導教室)、ファーストステッププログラム「こども家庭支援センター」の活用など、さまざまな子どもたちの居場所作りを進めている。

今後の取り組みの方向性としては、1人でも2人でも、不登校児童生徒が自分の居場所を見つけ、自分なりの学校生活や進路選択に向えるよう、学校向けマニュアルの作成及びセミナーの実施において、学校に対して初期対応やチームとして取り組む重要性について伝えしていくとともに、適応指導教室の役割の明確化と適切な活用をすすめていく。また、オンライン授業の日常化しながら、不登校児童生徒にも効果的に活用できるよう考えてすすめていく。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(岡部教育長)

これは、いじめ不登校というよりも、特に不登校対策についての説明となる。

(山口委員)

全国全道に比べて釧路市の出現率が高い要因について触れられているが、比較して釧路市が高いことについて見解があれば教えていただきたい。

今後、義務教育だけの問題ではなくて、釧路市内の中学校を卒業して高校へ進学した子どもが、不登校になって、その親御さんがどこに相談したらよいかという話もある。

義務教育であれば、相談窓口とか、青空、さわやか、ふれあいなどの受け皿があるが、高校生になってから、どこに相談したらいいのか、どのような対応をしてもらえるのか保護者が不安になっている事例があった。たまたまその子の出身中学校の校長と連絡が取れて、こちらに相談してもらえれば当時の担任も含めてサポートできるという話があった。

小中連携というのは中1ギャップを無くすことと、進んでいる小学校の授業改善を中学校でもならって進めていくために盛んになってきている。中高の連携は、組織として中高連絡協議会があるが、もしその中に高校へ行ってどういうケースで不登校になっているかの情報が、高校側から中学校へ寄せられた場合、中学校の進路指導のあり方も含めて、生徒一人一人の心に寄り添った指導ができるのではないかと。今回のケースになった場合、出身校の先生方の関わりがもっと可能になると、子どもにとっては助かると思うので、検討課題として押さえていく必要があるのではないかと。

(小出委員)

高校生になって不登校になる場合も、高校になって突然問題が起きて不登校になるのではなく、小学校、中学校の積み重ねで高校に行った時に、耐えられなくなって不登校になってしまうこともあるので、切り離しては考えられないと思う。

小学校、中学校で不登校にはなっていないけども、問題を抱えている子どもがいると思うので、未然に防ぐために、そこのケアも大事かと思う。

子どもだけではなく、親に対してのケアも先生とのつながりという点で大事になってくる。

表立っては出てこないため、親が悩みを抱えていたり先生に相談したりというのはあるが、対応がしっかりされないため、高校に行って不登校になってしまうこともある。未然に防ぐためには、先生との関係が大事になると思う。

(富田総括指導主事)

未然防止の部分では、高校に入ってから中学校の先生が関わりを持つかということ、自分の中学校の子どもたちに対して精一杯やっていたら、なかなかそうはならないが、つなぎの部分、進路選択をする時に、不登校の子どもにとってどういう状況がいいのか、保護者と本人と日常の生活を踏まえて検討した上で、送り出すことが大事であり未然防止になる。

稀に高校生からの相談もあり、中学校と連携を取りながら相談にのことはあるが、まずは小中学校で保護者と共にできること、未然防止でできること、実際になった場合にはどういう手立てができるのかということ、懸命にまずやることが先決である。

現状、先生方にもやっていただいているが、改めて、学校ですべきことをマニュアルを使い、チームとして寄り添った対応を示しながら、教育委員会と連携していきたい。

(小出委員)

中高連携もそうであるが、小学校、中学校にいる間にできること、子どもにしっかり寄り添い高校に行っても不登校にならないように対応して欲しい。

(山口委員)

確かに、釧路市教育委員会が関われる範囲というのは、小学校、中学校、市立の北陽高校であれば釧路市教育委員会の管轄なので相談なども関われるが、道立の場合は教育局が管轄となる。

教育局にも相談窓口や受け皿はあるが、どのような対応をしているのか、学校とどのような連携が図られているのかは一線を引いている。しかし、釧路市で生まれ育って釧路市にある道立高校に通っている子どもも、釧路市の子どもであることには違いない。行政の違いがあるので難しさはあると思うが、教育局との連携を今後深めていくことも個人的には必要かと思う。

(富田総括指導主事)

教育局の高等学校教育指導班とは、非行事案が多く、不登校、保護者の相談なども連携は常にしているが、教育局がどのような対応をしているかまでは把握できてはいない。

(大山教育指導参事)

義務教育が終わった子どもたちの後を追うためには、自分たちだけではなく、市長部局との連携を図りながら、この問題に対応しなければならないと話している。

(松尾委員)

不登校の原因がいじめばかりではないことは少し安心したが、実際に不登校の人数というのは結構多いのではないかと。私は地域で民生委員をやっていて学校訪問などもあり、地域の子どもの見守り立場として学校に行った時に、不登校の人数や原因も聞かせていただくが、私たちは何もできなくて、その話を聞く事しかできない。

不登校になると家にこもっている事が多いので、外をふらついていけば会った時に声をかけることもできるし、相談にのることもできるが、目に見えてこないために、地域でいくらお手伝いしたいと思ってもできないというのが現状である。こういう家庭があるのでちょっと行ってみてくださいと言われれば、仕事なので行きますが、それがなければ何もできないでタッチできない。地域の人間にやってもらいたい事があれば、どんどん使ってもらいたいと思う。

釧路市の主任児童委員は、各校区に2人ずついて意識もあるが、研修会を実施しても何をやっていいのか分からないという声がある。実際に地域と一緒に連携を取ってということであれば、手伝えることを言っていたきたい。

(富田総括指導主事)

学校勤務の時には、地域、民生委員の方に大変お世話になった。様子を見に行ってもらったり、元気がない子どもたちに声をかけていただいた。

個人情報も含まれるものなので、一概にこの家庭はと言えないところはあるが、登下校の時に挨拶してもらおうことなど、子どもたちを見守っているというだけで違うと思うので、いただいた意見については学校へ伝えていく。

(種村委員)

不登校の出現率について、特に中学生の7.06%というのは小学生の3倍以上多い。その原因として、長期化する割合が高い、学年が上がるにつれてその傾向が強くなると説明を受けたが、中学生

が多いということは、当然高校に入った場合でも不登校になるケースがあるということになる。

早くに芽を摘むというか、中学校の段階でこれだけ多いのであれば、何か手立てを取る方法はないのか。多感な時代なので、いじめや友達関係がこじれて不登校になるケースは、確かに顕著になるというのは分かるが、必ず解決方法があると思うがどう考えているか。

(富田総括指導主事)

出現率について、これが要因だという事が言えないが、不登校も組織として対応していくのが大事だと押さえているので、担任が学校に来ている来ていないを把握するのではなくて、学校としてどう対応していくのかの問題だと改めて学校側に伝えていくしかないと思っている。

未然防止の学校の手立てとしては、欠席がまだ30日に満たないけれども、家庭環境的に考えても、生活リズムから考えても、学業から考えても、この子は不登校になっては困るとなれば、色々な先生が関わりながら話を聞き、未然にアタックをかける必要がある。

教育委員会としても関わりは持つが、一番は最前線にいる学校である。ここ数年で出現率がグングンと伸びたため、学校の対応が一部追いついていないので、改めて未然に防ぐ取り組みをやっていきませんかというものを示していきながら対応していく。

小中学校との連携の部分が大きくて、小学校で不登校だったらそのまま中学校へ行くという事があるので、連携の中で子どもの理解ということも必要であり、学業が不振であればフォローアップするような取り組みも学校として行う必要がある。

要因については、調査で学校が上げてくるもので、実際の本人のとらえと合致しないところもあるかも知れないが、しっかりと学校単位で要因分析をするように話していきたい。

## 【公開案件】報告事項

### (3) タンチョウ・レスキュー巡回展講演会の開催について

(中村動物園長)

昭和27年の北海道の調査では33羽だったタンチョウが、地道な保護活動により現在は約1,900羽まで生息数が回復している一方で、人の生活圏近くに生息しはじめ、自動車との衝突事故などにより、釧路市動物園へ保護されてくるタンチョウの数も増えている。

こうしたことから、タンチョウの現状や事故防止のための普及啓発を行うため、釧路市動物園が中心となり北海道内の4つの公立動物園が連携し、2020年12月にタンチョウ・レスキュー実行委員会を立ち上げ、日本動物園水族館協会や北海道新聞社からの助成金等も活用し、各動物園を(札幌市円山動物園、旭川市旭山動物園、おびひろ動物園、釧路市動物園)を巡回する「タンチョウ・レスキューパネル展」を開催することとした。

本年7月1日から旭山動物園を皮切りに、おびひろ動物園での開催を経て、釧路市動物園では、11月12日(金曜日)から12月26日(日曜日)まで開催する。年明けには円山動物園での開催を予定している。

このパネル展に併せて、日ごろタンチョウのレスキューに従事している釧路市動物園の獣医師による講演会を12月12日、日曜日に開催する。コロナ禍のため事前申込制・先着15名として11月

12日から電話で受け付けたところ、11月18日時点で定員15名に達したことから、急遽午前も追加で開催することとし、事前申込を受け付けている。

釧路市民の方にこの講演会へ参加いただき、釧路湿原の象徴でもあるタンチョウを通じて北海道の自然への理解をより深めるとともに、この先、タンチョウや自然と共生していくために何ができるかを考えるきっかけになればと思う。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(岡部教育長)

追加した講演会の時間は。

(中村動物園長)

12月12日の10時15分から12時20分の予定。

(山口委員)

4つの動物園はパネル展のみで、講演会をやるのは釧路市動物園だけか。

(中村動物園長)

全ての動物園で講演会を開催する。

#### 【公開案件】 報告事項

(4) 学校の現状について

(大山教育指導参事)

コロナの感染状況が落ち着いたので、昨年度作成した「新型コロナウイルス感染症予防マニュアル」の一部を改訂したことを伝えた。

1点目は、授業改善について。多くの学校で授業改善が進んでいる。2学期からお願いしている学びに向かう環境づくりや板書など、基本的な事項は指導いただき1学期よりも大きく改善された。しかし、一部の学校では、様々な理由をつけて授業改善が進んでいない現状が見られ、その理由の一つに「授業進度及び授業時数調査」がある。ここで示した3つの例、「教科書通りにしか指導できない」は小学校の指導案検討の時。「教え込みの授業になる」は中学校で平木先生の指導の時。「授業改善ができない」は中学校の計画訪問の時に言った言葉になる。

また、12月の釧路市標準学力調査に関わって、7月に出題範囲を周知していても「指導が間に合わない」と言う学校もあった。

校長会議では、指導ができないと言っている場面に管理職がいたのであれば、その場で指導していただきたい。その場で指導できない弱さが、学校改善が進まない要因だと考えている。覚悟を持って釧路の課題が何かという事の解決に向けてやっていただきたい。

2点目は、大館市で開催された「全国小学校キャリア教育研究協議会」に参加した件。中学校の1～3年生の授業と研究協議、高橋教育長の実践発表「ふるさとキャリア教育の10年」をお聞きした。高橋教育長の考えや思いが、すべての教職員と児童生徒にまで浸透していた。特に印象に残ったこととして書いたが、「教育長の思いや願いが管理職だけではなくすべての教職員に浸透していること」

「数値で測れる学力は子供たちの将来の職業選択のために一番必要であること」「学校で教えることは教科指導に留まらず、学び方（集団思考の仕方）から人としての振る舞い方や生き方などキャリア教育そのものであること」「教え込みの授業より失敗した探求学習の方が多くのことを学べると信じて授業改善を進めたこと」などで、すべてが大館市の教育を実感するものであった。

2月の教育講演会の講師として高橋教育長をお呼びしているため、多くの先生方に参加をお願いしている。なお、本川校長先生が12月に大館市の第一中学校を訪問する。この第一中学校は最後まで探求学習に反対した学校で、その学校が10年後にどう変わったか見てくることになっている。

3点目は不登校児童生徒への対応。不登校の対応は先ほど詳しい説明があったが、校長会でも来年度の「ふれあい教室」の対応について説明した。特に「ふれあい学級」を城山小学校に移転することで、不登校児童生徒や保護者のニーズに応じた「個別指導」と「集団適応指導」が段階的に可能になるというメリットがある。すでに「ふれあい学級」で学習している児童生徒の保護者にも移転のお知らせをしているところである。

最後に、12月1日の釧路市標準学力検査の件、不登校対応にかかわる学校訪問の件、一般教職員の人事異動の件、そして、教育懇談会で話題になった中学校の読書活動や図書室の整備についてお願いしている。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

（山口委員）

授業進度及び授業時数調査の意味と授業改善について、学校現場に対する教育委員会、とりわけ参事の思いがかなり出ていると思う。これは受け止める側の問題ではあるが、このメッセージが一方通行で終わってしまわないように、どのように校長会として受け止めて対応するか、その辺も注視していく必要がある。

大館市のふるさとキャリア教育に学んだ中身については、釧路市も教育長の思いが早く全ての学校の管理職、そして全ての教職員が受け止めて、それを実現するために各学校現場で頑張ってもらいたいと、そういう日が早く来て欲しいと願っている。

ふれあい学級の城山小学校移転については、これは暫定的な措置になるかと思うが、ふれあい学級が移転した後、教育研究センターは先生の研修講座と相談業務が残るだけになるので、今は退職した先生が複数名いるが、今後2名となるのは寂しいと感じた。

（大山教育指導参事）

先ほど話したとおり、授業改善はかなり進んできている。2学期に入ってから計画訪問と私の経営訪問の中で、全ての学級で板書指導が終わっている学校もあり、校長先生は頑張っている。

問題は残りの学校がまだ進んでいない状況で、課題を校長先生方に認識してもらわないといけない。校長先生の思いを先生方に伝えて欲しいと言いつつ続けているが、それが伝わらないで校長先生が一步も二歩も引いてしまうと、学校改善として進まない。

教務主任と主幹教員の研修会があり、報告を受けると授業改善を積極的に取り組もうとしている発言が大変多くなっている。先生方は校長先生がどっちを向いているかを見ている。校長先生が、一生

懸命やろうとしている先生と同じ方向を向いていれば、先生方は動き出し、そうでなければ内側を向く状況まで来ているので、あと一步頑張っていたきたい。

(山口委員)

中学校の授業改善が進んでいないということを受けて、全ての中学校の授業を見せていただく機会があったが、その中で教育委員の感想として書かせてもらった一節に、マネジメント理論で有名なドラッカーが、一つの成功体験が物事を改善する時の大きな阻害要因になることがある、という部分を含み触れながら感想を述べさせてもらった。中学校の先生方の中に、生徒を集中させて学習課題を明確に伝えて、生徒は集中して1時間の授業が完結するという授業を随分見た。

多分この授業を受けた生徒は、テストではそれなりの点数を取り、学習内容を理解したということに落ち着いて、先生は良い授業をやったという認識になる。これは成功体験になって、なぜ良い授業を行っているのに授業改善しないといけないのかという、一斉画一的な授業に固執する先生が確かに中学校にはいる。

そういう授業の後、今求められている主体的な深い学びの授業を実践してる場面では、前の授業を集中して受けていた生徒たちが、次の時間は生き生きと違った表情を見せている。生徒が求めているのは、前半の集中している授業ではなく、後半の授業だということに前半の先生は気付いていない。そこに管理職としてメスを入れていくか。そのプライドのある先生にどういう指導の手を差し伸べていけるかが大きな問題になっている。

(大山教育指導参事)

一斉画一的な授業を行っている授業で、成果が表れていれば授業改善の指導は大変になるが、実際は成果が表れていないことが問題である。

ある先生の授業が上手で、その先生の教える生徒の学力は高くなっている。そうすると成果を考えただけでもわかるので、その部分を校長先生方に理解してもらわないといけない。

(岡部教育長)

良い授業をする先生は沢山いて、委員の皆さんも授業を見て、私も同じ感覚である。

良い授業をする先生がいるが、その先生の授業を他の先生はそれほど見ていない。良い先生の授業を見て、自分の授業に良い部分を取り入れていこうという意識が中学校の先生は特に足りない。

私は教員ではないが、素人が見てもそう思う例というのが中学校では特に多く、これは管理職の指導力によるところもあるが、引き続き粘り強く指導していきたい。

(山口委員)

ベテランのプライドを持った先生も含めて、今求められている授業改善に向かって、全ての先生方が取り組んでいる中学校もある。そういう学校の校長のマネジメントは、先生方と共に同じ方向を向いて汗を流しながら、正しい確かな方向を示している。そのような校長のやり方を他の校長もまねして欲しい。

(松尾委員)

参事の苦労は毎月報告を聞いて理解する。縁があつて大館市の高橋教育長とお付き合いができ、目指すものができたという事はやりやすいのではないかと思う。12月に本川校長が視察する学校にも興味があるが、大館市もこれまで10年かかっているのですぐに数字として上がってくればいいが、

焦らずに10年先を楽しみにしたいと思っている。

今回中学校を見せてもらい、これまでの公開研究会で見せていただいた授業より、生徒も先生も意欲的な勉強の仕方だと実感し、本当に改善されてきていると感じた。

(山口委員)

中学校の授業改善が確実に進んできている報告を受けて、非常に嬉しい気持ちになった。さらに頑張っ欲しいと思う。

(岡部教育長)

教育講演会は令和4年2月5日土曜日、14時からコーチャンフォー釧路文化ホール小ホールで開催予定であるので、多くの参加をお願いしたい。